



KELAB JEPUN KUALA LUMPUR

THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR (PPM 0041425111963)

NO.2, JALAN 1/86, OFF JALAN TAMAN SEPUTEH, 58000 KUALA LUMPUR.

TEL: 03-2274 2274 FAX: 03-2274 3584 Email: office@jckl.org.my

第 57 回 KL 日本人会年次総会 議事録 (案)

開催日時：2021 年 10 月 30 日 (土) 午前 9 時 30 分～10 時 50 分

場所：オンライン (Microsoft Teams 会議)

出席者：岡部(0866 / O-1167), 荒木(0001 / A-0698), 安部(0002 / A-0704), 伊藤(0003 / I-1271), 高松(0005 / T-1845), 星合(0006 / H-1247), 阪口(0013 / S-1977), 鎌田(0023 / K-2605), 白石(0024 / S-2104), 児島(0026 / K-2471), 香取(0031 / K-2474), 堀口(0040 / H-1231), 定元(0053 / S-1913), 平田(0064 / H-1249), 小田(078 / O-1188), 淵上(0164 / F-0514), 沖野(0212 / O-1252), 高柳(0319 / T-1730), 瀧澤(0370 / T-1839), 山口(0458 / Y-1375), 前田(0745 / M-1840), 小野澤(0801 / O-1205), 吉田(0873 / Y-1296), 赤井(0896 / A-0673), 小沢(0906 / O-1243), 青山(A-0667), 足立(A-0705), 有留(A-0706), 有山(A-0709), 藤井(F-0157), 福澤(F-0574), 服部(H-1208), 林(H-1253), 樋山(H-1254), 伊勢田(I-1268), 伊藤(清)(I-1306), 生田(I-1307), 伊藤(彩)(I-1308), 池田(I-1321), 熊谷(k-1416), 川村(K-1955), 劔崎(K-2525), 蒲谷(K-2526), 児玉(K-2527), 米谷(K-2579), 葛西(K-2580), 加悦(K-2581), 北里(K-2582), 門野(K-2606), 國料(K-2607), 万代(M-1007), 森田(M-1338), 森(M-1575), 松尾(M-1587), 松本(M-1697), 三宅(M-1780), 森永(M-1815), 町田(M-1816), 本吉(M-1830), 水上(M-1839), 中田(N-1240), 能代(N-1348), 長嶋(N-1383), 根本(N-1384), 岡本(O-0989), 大山(O-1219), 大原(O-1220), 岡田(O-1221), 大森(O-1222), 小野田(O-1249), ペリング(P-0002), 清水(S-1586), 鈴木(S-2056), 斉内(S-2057), 守護(S-2066), 下村(S-2105), 城間(S-2118), 佐々木(S-2119), 田中(T-1804), 高橋(裕)(T-1805), 高橋(T-1855), 田中(真)(T-1860), 田口(T-1862), 多田(T-1863), 上野(U-0432), 海野(U-0433), 上田(U-0438), 柳井(Y-1320), 山本(Y-1356), 山口(真)(Y-1357), 吉岡(Y-1384), 安永(Y-1385), 山田(Y-1386)

以上、オンライン参加者 93 名 (議決権：117) (敬称略・順不同)

※オブザーバー：かとれあ会清家副会長 (1 名)

- 定足数の確認／開会 (柳井事務局長)
開会に際し定足数の確認を行い、9:30 定刻の時点で、全体の総議決権数は出席者と委任状合わせて 244 以上があり、会則 7 条 2 項(a)に基づき本総会は適正に成立したとして開会が宣言された。
開催時のオンライン出席者 (議決権数) は、理事の最大定員 (29 名) の 2 倍以上にあたる 90 名 (議決権数 90 以上) 開会までに事務局で受け付けた有効な委任/議決権の数は 154 であり、議長に委任 153 通、出席会員に委任 1 通であった。(最終的に確定した出席者数 93 名 (議決権数 117)、委任含む議決権総数 271)
- 議長の選出 (柳井事務局長)
会則 9 条 (a) に従い、岡部会長が本総会の議長に選出された。
- (1) 第 56 回年次総会議事録案の審査 (岡部会長)
会員の皆様へ 2020 年 9 月および 2021 年 10 月 12 日(総会案内時)に E-mail にて送付された議事録について、審査が行われた。

第 56 回年次総会議事録案は、意義なく原案通り承認された。

(2) 2020 年度事業報告及び会員数推移報告

① 2020 年度事業報告（要旨）

（岡部会長）

岡部会長より各委員会の 2020 年度事業の総括報告がなされた。その概要は次の通り。

総務委員会

・会長、副会長、各委員長、顧問で構成した総務委員会を毎月理事会の 1 週間前に招集し、委員会等からの様々な提案事項を検討・審議し、その結果を理事会へ報告または上程した。また、各委員会間にまたがるような日本人会の運営上の課題や中長期の各種課題に対して議論を行い、必要に応じ継続的に審議するようになった。

・MCO 期間中の会費請求について議論。KL 日本人会は、互助組織、非営利団体であり、施設利用、サークル活動が出来る出来ないにかかわらず、固定費が掛かっている。固定費が足りなくなれば、将来的な会費の値上げの検討もしなければならなくなる。よって世界中が想定外の状況下におかれ、会員の皆様にはご不便をおかけしているが、今後の状況が読めず、平常時に戻するのにどのくらいの時間がかかるか読めない今、減免措置を行うことは難しいとの結論となった。

今後、会員への何らかの還元策、ならびにテナントサポートとなる対策について検討していくこととした。

・2020 年 8 月：会員へのテナント応援クーポン配布を決議

・2021 年 1 月：会員へのテナント応援クーポン第 2 弾配布を決議

・駐マレーシア日本国大使宛に、JACTIM との連名で、日本に住民票の無い海外在留邦人も日本でワクチン接種が受けられるよう、要望書を提出。また同内容で内閣府特命担当大臣：河野新型コロナウイルス感染症ワクチン接種担当大臣にも要望書を提出。

規約関係

2021 年 1 月に慶弔規定改定を行った。最終改定から 10 年経過しており、情勢・慣習の変化等を考慮したもの。

セカンドホーム関係

新型コロナ感染拡大及びマレーシア政府による活動制限に伴い、例年通りのイベント開催が出来なかったことから、セカンドホームが関連するボランティア活動は殆ど実績が無かった。

企画広報委員会

新型コロナウイルスによる S O P の観点より、例年開催してきた 3 つのイベントから、クリスマスイベントに関しては、作品応募型に形を変えての実行とした。クリスマスにちなんだぬりえイベントを行い、応募された作品は、HP に掲載、214 作品 144 名の参加があった。参加者には参加賞、会長賞、委員長賞、特別賞（会員による投票）を選定した。

・現環境下、感染予防の観点から、会員の皆さんが安心して参加できる方法を検討し、できる範囲での活動実行がのぞまれていると考える。

会員関係

コロナウイルスの影響にて、偶数月に開催している「新規入会者の集い」は、開催できなかった

ニュースレター編集委員会

・2020 年 4 月号より、ニュースレターをデジタル化。KL 日本人会ウェブサイトへの掲載を実施、1 年間毎月初旬に E-mail にて会員へのお知らせを発信してきた。

・2020 年度は主にオンラインにて、月に 1 回 ボランティア編集員を含む編集委員によるニュースレター編集会議を開催。毎号の編集内容、その時期にあったコンテンツを検討、編集方針を決定。決定内容に従い、編集委員による取材活動、原稿の作成を行い、また寄稿については原稿の作成依頼を行い、編集・校正作業を実施し、毎月初めに会員宛ニュースレターを発行した。

財務委員会

・定例理事会にて月次財務報告を実施。

・2020 年度は、667 千リングットの現金収支プラス、419 千リングットの税後利益で着地。

・新型コロナウイルスによる新規入会者の減少に歯止めがかからないことに加え、イベントの中止やテナント収入の減少などから、事業収入は未達となっている。今後も会員数の増加を実現することは容易ではなく、可能な限りコストを削減し、効率的な運用を図る必要があると考える。

クラブハウス委員会

・2020年10月：会館の中長期間修繕計画開始。今後中長期的に、建物を維持していくためにやるべきことの洗い出しを行う必要があり、（屋上防水の改修、人工地盤の耐久性の確認等）、今後のメンテナンス及び修繕計画について、優先順位を付けて年度ごとの実施項目を明確化するため、コンサルタント会社（プラスPM社）に依頼することとした。

クラブハウス将来計画小委員会

・2021年3月31日終了事業年度の決算では、約666千リングの現金収支プラス、479千リングの税前利益という結果となり、当小委員会内で2020年度の新会館建設積立金計上額を検討した結果、666千リングを積立てることを理事会で決議した。

・クラブハウスは、1976年により、3期にわたり建設されており、当初建設から50年後の2025年ごろの建て替えを計画していた。昨今の財政その他の要因もあり、延命させ、2045年ごろの建て替えとなるよう現在は想定している。建物の延命のためには、必要な改修工事、耐久性の定期点検等が必要であり、コンサルタントの協力を得ながら今後中長期的に実施していく。

店舗委員会

・2020年5月:MCO期間中の家賃割引について、店舗クローズ中の家賃は賦課しない。MCO期間内に開けていた店舗は家賃を半額にする。水道&電気料金は全額賦課する（メーター通り或いは別途取り決め通り）を提案し、承認された。MCO2.0（2021年1月）もこれを適用した。各テナントの経営状況を見ながらできる限りの支援を行っていきたいと考えている。

文化活動委員会

・2021年3月末現在、部活動：18、同好会活動：34 合計：52の部・同好会が活動。

・2020年度日本語講座は、MCOのため開催できなかった。

・JFKL主催、KL日本人会が協賛している日本語弁論大会、日本映画祭共にコロナウィルスの影響で中止となった。

スポーツ活動委員会

・2021年3月末現在、部活動：12、同好会活動：10、合計：22部・同好会が活動。

・2020年10月：KLソフトボールリーグ運営委員会同好会は、ソフトボールリーグに参加している各チームの代表者の集まりであり、これを同好会として認定することによって、JSKLグラウンドの使用を認めてきたが、リーグ参加チームの日本人会員の比率は低く、会員比率50%以上を守るという付帯条件が守られていないこと、同好会メンバーである各チームの代表者にも非会員が散見されたことから、入会促進の通告を行った。その結果、2021年1月、KLソフトボールリーグ運営委員会同好会から廃止届が提出された。

学校委員会

2020年はコロナ禍による3月中旬の行動制限令発令を機に、園児・児童・生徒の減少が加速、総数は一気に200名近く減少し、その後も低迷が続いた。

2020年度 園児・児童・生徒数の推移

年月	幼稚部	小学部	中学部	合計
2020年3月	119	553	122	794
2020年4月	57	432	116	605
2021年3月	65	444	109	618

2020年はコロナ禍に伴う休校措置が断続的に続き、年間を通じてオンライン授業対応を実施すると共に、計画していた多くの学校行事の実施を見送らざるを得ない事態となったが、2018年度より取り組んでいる①ICT教育の充実、②英語教育の充実、③心の教育の充実からなる学校経営3か年計画は、継続して強化推進した。特にICT教育では、オンライン授業の実質的な初年度としては大きな成果を上げることが出来た。

①学校一般会計（小中学部）

収入実績はコロナ禍による生徒減少で授業料収入が予算を大幅に下回るも（予算比86%）、予算を上回る政府援助等により全体では6%減で着地した。（予算比94%）

一方で支出は断続的な休校措置に伴い、旅費交通費、光熱給水費、委託管理費、行事費等が低下すると共に、収入減を見据えて不要不急の支出を先送りする等の対策を行った。

②学校一般会計（幼稚部）

収入実績はコロナ禍に伴う園児の大幅減少で大きく予算を下回り（予算比 61%）、支出は各種コストをコントロールするも固定費を中心に削減難しく、483 千リンギの赤字となった。

・授業はオンラインで実施したが、政府補助もあり ICT 端末は整備完了、また教員も着実にオンライン授業の習熟度を上げ、保護者の皆様方からは一定の評価を頂いた。また、学校運営の各種仕組みの再整備については、順次、諸課題について理事会で共有しながら整理を推進してきた。

教育施設管理委員会

・2020 年 12 月：帝京マレーシアと日本人会の覚書更新。2018 年 1 月より会館の使用に関する 1 年間の覚書を締結しており、来年度分について同社と覚書を取り交わした。

福利厚生委員会

・はぐくみ会、出産準備教室：コロナ禍において、ボランティアスタッフによる懸念や参加者等への感染を勘案し、両事業ともに実施を控えた。

・オンラインヘルストークの開催：下肢静脈瘤「コロナで増えた足の静脈の病気～ふくらはぎ運動と弾性ストッキングのススメ～」※第 2 回開催を 20 年 12 月に予定していたが、政府による感染拡大防止のための移動制限令により第 2 ホールでの聴講が不可能となり見送った。

・予約制オンライン無料健康相談：期間：2021 年 1 月から（月 1 度）

医師：Mahameru International Medical Centre バラト よしみ 氏（ボランティアによる実施）

21 年 3 月時点、各月すべて満席

日本人墓地維持管理委員会

・毎年恒例で実施している春秋のクアラルンプールに日本人墓地の慰霊祭は、COVID19 の感染予防のための行動制限遵守のため、開催不可能となった。このため会員有志による慰霊堂での焼香、慰霊碑及び墓碑への献花を行った。

・埋葬申請：一件、承認、埋葬済み。

IT システム委員会

・2020 年 2 月に行ったウェブサイト・リニューアルに続き、会員ログイン機能、支払い機能を備えた、新メンバーシップ管理システムの開発については、MCO 等の影響もあり遅延しているが、継続開発中。

盆踊り実行委員会（2020）

新型コロナウイルスの影響により、マレーシア政府による活動制限令（3 月 18 日～6 月 9 日予定）が発令されたことにより、大規模イベント実施の許可が出ない事、開催準備が出来ていない事、また関係団体からの意向も踏まえ、感染防止の観点から、第 44 回 KL 盆踊り大会は開催を中止した。

バザー実行委員会（2020）

感染者数増加および活動制限令・SOP 変更により、開催を 2 度にわたり延期したが、2021 年 3 月 14 日（日）11 時～14 時、第 48 回チャリティバザーを KL 日本人会第 1 ホールにて開催した。当日は来場者約 370 人。（関係者ボランティア含む）手芸品・協賛品のバザー当日売上げ収益、企業・個人の皆様からの現金ご寄付に過去の剰余金等を合わせた約 RM75,000 を 10 ヶ所の福祉施設に寄付する提案を、JCKL 慈善基金に対し行った。

新年会実行委員会（2021）

2021 年 1 月の新年会実施に向け、12 月末までの RMCO 中の SOP に準拠する形で行うことを検討した。また、ステージ参加予定の部・同好会がコロナの影響で参加できなくなったことから、同時期に会館で計画していたチャリティバザーとの合同開催についても検討を重ねたが、1 月 13 日～26 日までの MCO 発令により、中止を決定した。

海外安全関係

新型コロナウイルス感染症対応に関して、・マレーシア政府による出入国管理情報、活動制限令等について、・日本政府による水際対策強化に係る措置等について、それぞれ情報提供を行った。

婦人部

1) ボランティア訪問支援活動

① ブキナナス身障者施設（Asrama Cahaya Rumah Wanita Cacat, Jalan Bukit Nanas）及び② PJ チルドレンズスパスティックセンター（Spastic Children Association of Selangor & W.P）の福祉施設にて一般かとれあ会婦人会員とかとれあ会役員によるボランティア活動を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、施設での活動は中止となった。

2) 慈善活動・行事関連

- ① 寄付先福祉施設との交流： 9月、2019年度の寄付先福祉施設訪問を実施。
- ② チャリティバザー関連
 - ・ 2021年3月14日(日) KL日本人会第1ホールにて第48回日本人会チャリティバザー2020を開催。
 - ・ チャリティバザー活動からの寄付金（法人会員からの寄付金及び過年度剰余金を含む）：
RM75,000.00
 - ・ 2021年4月23日(金) オンラインドネーション贈呈式を行い、マレーシア国内10福祉施設に寄付。

全マレーシア日本人会

第41回目のマレーシア全日本人会連絡会が、2020年10月2日（金）オンラインにて開催された。（ペナン日本人会が幹事）12か所の日本人会のうち、今回は10か所の代表が参加した。また、同時に大使館主催で第39回安全対策協議会が開催され、外務省海外安全ホームページから、感染危険情報、危険情報について、及びマレーシアの安全情報が共有された。

② 会員数推移報告 （柳井事務局長）

配布資料参照。

- ・ **法人会員**は、20年3月末時点の315社から21年3月末292社へと、年間で23社、7.3%の減少。（昨年度は7社減）
- ・ **個人会員**は、20年3月末時点で1,680世帯（ご家族含んで4,076名）から21年3月末時点で1,442世帯（ご家族含んで3,363名）と238世帯、14.2%、家族会員含め713名の減少。（昨年度は80世帯減）
- ・ **個人会員のうち MM2H**の方は、同じく313世帯から263世帯へと50世帯、15.9%の減少。家族会員含めると、年間で102名減少。
- ・ **賛助会員**は、352世帯から289世帯へと会員数は年間で63世帯、17.9%減少。（昨年度は20世帯減）
- ・ **学生会員**は、11名から7名へと4名減少。

会員種類	2020年3月末会員数	2021年3月末会員数	年間増減
法人会員	315社	292社	-23社
個人会員	1,680世帯（4,076名）	1,442世帯（3,363名）	-238（-713）
[内 MM2H]	[313世帯（588名）]	[263世帯（486名）]	[-50（-102）]
賛助会員	352世帯（681名）	289世帯（554名）	-63（-127）
学生会員	11名	7名	-4

（ ）内は家族会員も含めた人数

総括：昨年度は残念ながら全ての会員種別につきまして会員数が大幅減少となった。

原因は、新型コロナ感染拡大の影響によるものであるが、法人会員の減少については、前年度同様に事業の縮小や撤退、経費節減、或いは代表者の現地人化等によるもの、また、個人会員の減少は、ここ数年の傾向であるご家族帯同者の減少・単身者の増加に加えて、新型コロナ感染拡大に伴う帰国者の増加、新規赴任者の着任遅れであると考え。MM2Hの減少については、同じく新型コロナ感染拡大に伴う日本への緊急避難者の増加と、新規のMM2Hビザの発給遅れが主要因と見ている。また、賛助会員と学生会員の減少も、政府によるMCO発令に伴う会館内店舗の閉鎖、講座やサークル活動の停止によるものと見ている。

以上のとおり説明が行われた。

(3) 2020年度収支決算案の件（審議）及び監査報告

① 決算案の件（当日配布資料参照） （高松財務委員長）

2020年度は、会館クラブハウスの補修・改装やITプロジェクトの推進等で、計57万6千リンギの大口径支出を予算計上したため、総合収支マイナス16万リンギの赤字計画でスタートした。その後コロナ禍の影響から、計画に遅延が生じ、支払いが翌期以降となったことに加え、各種イベントや講座の中止、一時休止せざるを得ない状況から、事業支出が抑えられ、結果総合収支は66万7千リンギの黒字で着

地した。

【事業収入】

#3000 会費・入会金：279万3千リングと、計画を12万3千リング下回り、予算比95.8%
#3100 店舗や教育テナントからの収入：MCO発令の影響で一部の店舗の家賃を減免したこと、及び一部店舗からの賃貸料の入金が4月以降にズレ込んだ影響で、予算比93.5%
#3200 その他の収入：ほぼ計画通りの実績
#3300 その他の会員活動等からの収入：ウェブサイト広告収入の増加はあったものの、新型コロナ感染予防の観点からの日本語講座や各種講座の減少などで予算比59.6%と低調。
この結果、年度末の会員事業収入全体は367万8千リングとなり、予算比で▲20万9千リング、94.6%であった。

【事業支出】

#5000 基本的な事務局運営に関わる費用：長期にわたるMCOの影響で事務局も閉鎖を余儀なくされたことから、支出が抑えられ、予算比76.1%となった。
#5100 水道光熱費：一部テナントからの前年度の入金遅延分がこの期に入金したという背景もあり、予算比36.9%と予算を大きく下回る結果となった。
#5200 通信費：予算比93.1%、#5300 従業員の給与・福利厚生費：予算比96.7%、
#5400 購読費・専門家費用：予算比74.6%、#6000 会員の活動に関する費用：予算比37.7%、
#7000 かとれあ会活動費と墓地関係の費用：予算比57.6%、#7101 備品購入費用：予算比33.6%と何れも予算を下回る結果となった。
#8000 クラブハウス補修改修関連の費用：通常の修理費や改装費の節約、長期修繕費用の期ズレ等で予算を大きく下回り、また#8006 ITプロジェクトについては新型コロナ感染拡大の影響で開発とトライアルが遅延し、プロジェクトの完了が翌期にずれ込んだことで予算比大幅減となっている。
事業支出全体としては、302万リングの実績となり、予算比約108万9千リングの削減。予算比73.5%という結果となった。

【会員事業収支】

65万8千リングの黒字の実績で、予算比約88万リングの良化となった。

【事業外収入】

定期預金の利息収入が予算を上回ったことと、所得税の支払時期ズレ等によって、13万8千リング、予算比プラス6万リングとなった。

【経常収支】

79万6千リングのプラスになり、予算計画比94万リングの良化となった。

【財務収支】新規入会者が予算前提よりも少なく、逆に退会者が予算前提よりも多かったことが要因で、予算比11万4千のマイナス

【総合収支】

現金収支実績が66万7千リングの黒字となり、予算比82万6千リングのプラスで着地。
現金収支全体としては、コロナ禍の影響から収入は予算よりマイナスとなったが、支出の抑制幅が大きく上回ったことから、期末現金残高として795万3千リングの現金を翌年度に繰越す結果となった。

【損益計算書】

総収入は390万6千リング。償却前費用合計294万3千リング。そこから減価償却費用と税金を差し引いた税引き後当期利益が41万9千リング

【貸借対照表】

資産の部：当日本人会の総資産は、1,661万7千リングと、前年度末比23万7千リング増加。流動資産は、819万リング、前年比56万8千リングの増加。固定資産は、ITプロジェクトの支払済費用が3月末時点で終了していなかったことから、建設仮勘定として28万8千リングを計上。一方減価償却費48万4千リング等の減少を加味して、842万6千リング、昨年比33万1千リング減少。

負債の部：125万7千リング、昨年比18万2千リング減少。

資本の部（会員勘定）：新会館建設積立金を合わせて、1,536万リング、前年比41万9千増。
（備考：上記金額は千の単位で四捨五入）

②監査報告

(守護監事)

2021年9月17日に葦澤監事および守護監事2名によってKL日本人会一般会計の監査を行い、「監査の結果、いずれの会計も財務諸表は適正性を損なうような重要な不正・誤謬は認められなかった」との報告があった。

2020年決算については、異議なく、承認された。

(4) 新会館建設積立金報告

(平田クラブハウス将来計画小委員長)

2021年3月31日終了事業年度の決算で、約66万6千リンギの現金収支のプラス、約47万9千リンギの税前利益という結果となったので、クラブハウス将来計画小委員会より理事会に対し、同事業年度決算の現金収支プラス分の66万6千リンギを新会館建設積立金に繰り入れることを提案し、理事会で承認された。この結果、新会館建設積立金の残高は現在、約341万リンギとなっている。

(5) JCKL 慈善基金活動報告

(高松財務委員長)

【JCKL 慈善基金：活動概要】

2021年3月14日に第48回チャリティバザーをKL日本人会婦人部かとれあ会が主担当となって開催し、その収益を主な原資として、2021年4月23日に総額約RM75,000を10箇所の福祉施設に寄付。施設名や寄付額など具体的内容は添付資料⑤-1を参照。

2020年12月31日終了事業年度の決算財務諸表

現金収支：慈善事業収入としてチャリティーバザーの収入とその他活動の収入を合わせた慈善事業総収入は、4万4千リンギ。

慈善事業支出：2019年度チャリティーバザー収益からの寄付拠出金が14万3千リンギ、それにチャリティーバザー開催費用や慈善基金運営費用を加えた慈善事業総支出が16万3千リンギ。

事業収支がマイナス11万9千リンギという結果となっている。

2020年度は事業外収支、財務収支共に計上無し、よって総合収支は同じくマイナス11万9千リンギ。結果期末のJCKL慈善基金の現預金残高は9万リンギとなった。尚、本年4月にこの残高から7万5千リンギの寄付を実施している。(損益計算書、貸借対照表は添付ご参照)

岡部会長より、かとれあ会の皆さま始め、慈善活動にご尽力を頂き、本会の目的の一つである日馬の友好親善にご貢献を頂いている皆様方に、感謝の意が述べられた。また本年12月には第49回チャリティバザーの実施を予定していることから、皆様へのご協力のお願いがあった。

(6) 会則改定の件

(小沢規約担当)

会則は、英語版会則が関係当局であるROSへ登録された公式版となっており、英語版会則の変更は、総会承認後、ROSへ申請し、その承認を得て有効となる。資料は、改定を提案する13か所について、日本語で要約したものとなっている。

主な改定項目について説明がなされた。

項目1：入会手続きにあたり、電子フォームによる申し込みを可能とする主旨で、推薦人の署名を不要とするもの。

項目2：総務担当理事の行う、訪問会員の承認手続きについて、事務局長へ委任することを可能とするもの。

項目10：事務局長が会計等々理事の委嘱により行う、日常運営費の出金・支払源額を、物価上昇等を考慮し、日常業務に支障が生じないようRM30,000からRM50,000へ引き上げるもの。

その他の項目：表現の修正、明確化、記載箇所の変更等であり、実質的な内容の変更を伴わないものとなっている。なお、改定案につきましては、総会付議にあたり、7月定例理事会にて審議し、全出席理事の賛成を得ていることが報告された。

本件、異議なく、承認された。

(7) 2021年度予算案の件

(高松財務委員長)

当日配布資料参照。以下の通り説明が行われた。

全体として、会員数の減少傾向の継続とコロナ禍の影響から事業収入が落ち込む一方、活動の再開に伴う支出の増加、クラブハウス補修や IT プロジェクト費用、さらには、コロナ禍でのテナント支援策としてのテナント応援クーポン等の一時費用がかさみ、2021 年度予算案は赤字予算を余儀なくされている。引き続き日々の運営費の節減に努め、赤字縮小に取り組んでいくが、コロナの影響を大きく受けざるを得ない今年度予算については赤字予算とならざるを得ない点につき、会員の皆さんへのご理解をお願いしたい。

【会員事業収入】

会費関係収入：個人会員数はここ数年来減少傾向が継続していることに加え、今年度は更に新型コロナウイルス感染拡大の影響がまだ続いていると見て、会費関係の収入は昨年並みの減少率マイナス 14%を見込んでいる。この結果、会員関係の収入は 238 万 9 千リンギ。昨年実績比マイナス 40 万 4 千リンギを見込んでいる。

テナント家賃収入：こちらも新型コロナの影響により、昨年同様に一部のテナントについては家賃の減免を行っており、家賃収入全体では前年実績より 5%の落ち込みを予測している。また、その他会員活動からの収入は、昨年度と同様に新型コロナの影響による盆踊り大会の中止、日本語講座や各種講座・講習会などの中止或いは削減による減少を織り込んでいる。

この結果、会員事業収入全体としては 322 万 1 千リンギ、昨年実績比 88%、マイナス 45 万 7 千リンギとしている。

【会員事業支出】

・#5000 事務局運営費用#5003 会館の定期維持管理費や#5010 IT 化推進に伴うサーバー設置費用等を見込み昨年度実績比 120%

・#5400 その他費用：JCKL 慈善基金の免税措置 5 年延長の為に会計士費用や、日本人学校のライセンスに関連した弁護士費用を計上しており、昨年度実績比 141%

・#6000 活動費用は、コロナ規制の緩和により#6007 新年会開催、#6018 日本語講座再開、更に#6022 には昨年度に引き続いてテナント応援クーポンの発行を入れており昨年度実績比 183%

・#8000 プロジェクト関係#8002 クラブハウス補修費には会館の老朽化に伴う屋根の漏水対策費を計上。また#8006 IT プロジェクト費用は今年度にズレ込んだ会員管理の新システム運用開始に伴う開発費残金の支払を見込んでおり、夫々昨年度実績比の 178%、及び 223%。

会員事業支出の予算計画値として今年度は 363 万 9 千リンギとなり、2020 年度実績比 61 万 9 千リンギ支出の増加を予測。

結果、会員事業収支はマイナス 41 万 8 千リンギ。定期預金利息や所得税等の事業外収支を加えた経常収支がマイナス 28 万 9 千リンギ。預かり保証金等の財務収支を加えた総合収支がマイナス 30 万 1 千リンギとなる見通し。

従い、2022 年 3 月末の現預金残高としては、前期の繰越、約 795 万 3 千リンギから 30 万リンギ減少し、765 万 1 千リンギとなる見込み。引き続き、日々の運営費の節減に取り組み、赤字額縮小について取り組んでいく。

(備考：上記金額は千の単位で四捨五入)

2021 年度予算案は、質問・異議なく、原案の通り承認された。

(8) 2021 年度日本人会理事選挙結果報告

(柳井選挙管理委員)

会則・選挙に関する規則に従って選出理事候補の推薦を受け付け、既に会員に通知した通り、法人会員登録名義人から理事 11 名、個人会員から理事 4 名が当選したことが報告された。

(i) 法人会員登録名義人からの理事 (定員 11 名)

①	安部 智晴	Ajinomoto (Malaysia) Bhd
②	伊藤 紀子	Mizuho Bank, Ltd., Labuan Branch
③	高松 文生	MUFG Bank (Malaysia) Bhd
④	團 雅義	Marubeni Corporation, Kuala Lumpur Branch
⑤	岡本 豊勝	Panasonic Manufacturing Malaysia Bhd

⑥	白石 雅資	Mitsubishi Corporation
⑦	児島 大司	Mitsui & Co. (Malaysia) Sdn Bhd
⑧	堀口 勝人	Sumitomo Corporation Asia & Oceania Pte Ltd., KL Branch
⑨	甲斐中 哲也	Sumitomo Mitsui Banking Corporation Malaysia Bhd
⑩	岡部 養明	Tokio Marine Life Insurance Malaysia Bhd
⑪	小沢 史朗	Hong Leong Assurance Bhd

(会員番号順、敬称略)

尚、Panasonic Manufacturing Malaysia 登録名義人の岡本豊勝氏、及び Sumitomo Mitsui Banking Corporation Malaysia 登録名義人の甲斐中哲也氏は、人事異動となり、夫々ご後任の鎌田憲二氏、大川博氏へ交代され、いずれも7月定例理事会で承認を得ている。また Marubeni Corporation, Kuala Lumpur Branch は本年9月より Marubeni Malaysia Sdn Bhd に名義変更となっている。

(ii) 個人会員からの理事 (定員4名)

①	藤井純一
②	熊谷敦子
③	川村延義
④	松尾義裕

(会員番号順、敬称略)

(9) 2021 年度新会長選出報告

(堀口総務委員長)

選出理事15名により構成される第1回暫定理事会(5月25日開催)にて新会長を互選し、岡部 養明氏(Tokio Marine Life Insurance Malaysia Bhd)が全会一致で選出されたことが報告された。

(10) 2021 年度任命理事氏名の報告

(岡部新会長)

第2回暫定理事会にて、次の13名が任命理事に選出されたことが報告された。(敬称略・順不同)

(i) 個人会員又は法人会員登録名義人の中から

1	小田 竜介	Hakuhodo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
2	小野澤 麻衣	JETRO Kuala Lumpur	法人登録名義人
3	香取 龍太	Sojitz (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
4	阪口 智弘	Japan Airlines Co Ltd	法人登録名義人
5	定元 威一郎	Toyota Tsusho (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
6	高柳 充博	Hitachi Asia (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人
7	瀧澤 征彦	Japan International Cooperation Agency (JICA)	法人登録名義人
8	平田 順久	Sato Kogyo (M) Sdn Bhd	法人登録名義人
9	淵上 靖	UMW Toyota Motor Sdn Bhd	法人登録名義人
10	星合 大	Itochu Malaysia Sdn Bhd	法人登録名義人
11	本村 努	Aeon Co (M) Bhd	法人登録名義人
12	吉田 敏彦	MC Tohcello (Malaysia) Sdn Bhd	法人登録名義人

(ii) 在マレーシア日本国大使館から

1	山田 元一郎	Embassy of Japan	個人会員
---	--------	------------------	------

(11) 管財人の選出

5月定例理事会にて、2021年度及び2022年度の管財人には、森田益充氏が推薦され、年次総会に提案された。

岡部会長より、これまで長きにわたり、管財人を務めていただいた加藤賢一氏に対し、御礼が述べられた。

本件、異議なく、承認された。

(12) 岡部新会長の挨拶（要旨）

昨年度に続き、2021 年度もクアラルンプール日本人会会長を務めさせて頂く事になりました。

当会の運営に当たっては顧問、理事、監事、管財人を始め、多くの方々から惜しみないご協力を頂き、会則にある当会の目的、即ち「会員相互の親睦、互助を図り、日本とマレーシアの友好・親善の促進に貢献する」に沿った活動を続けて参りました。この場をお借りして御礼申し上げます。在マレーシア日本国大使館及び関係各機関のご支援のもと、今後も当地の在留邦人の中心的コミュニティとして当会の運営に努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022 年にマレーシアの東方政策が 40 周年を迎えます。東方政策のもとで過去 40 年間にわたり日本とマレーシアの間で友情が深まり、戦略的パートナーシップと位置づけられる現在の強固な両国関係が築かれてきました。東方政策が果たして来た役割を再認識し、将来に向けて幅広い分野で相互理解と友好協力関係を促進するべく、在マレーシア日本大使館等において様々な 40 周年行事を検討中と伺っております。当会においては、これまでも盆踊り大会やチャリティバザーのような大きなイベント、また日常的な部・同好会活動等を通じて、マレーシアの方々との交流と相互理解に努めて参りました。2022 年に向けては新型コロナウイルスの感染沈静化を願い、東方政策 40 周年を一つの契機として、当会も様々な活動を通じて「日マの友好・親善の促進に貢献する」役割を果たして行きたいと思っております。

なお、昨年より続く新型コロナウイルスの感染拡大により、当会の活動は大きな影響を受けてきました。事業報告においても述べました通り、多くの活動が中止や縮小を余儀なくされました。ようやく感染拡大のペースは弱まり、社会活動が再開されてきましたが、警戒が必要な状況に変わりありません。会員の皆さま方の安全健康な生活を心よりお祈り申し上げます。

このような環境変化の中で、当会は多くの課題に直面しています。昨年以降、本帰国により退会された方や、一時帰国により休会された会員が急増しました。財務面や、理事の派遣等による運営支援の面にて、当会を発足当初より支えて頂いております法人会員の企業におかれては、今般のパンデミックの影響を大きく受けています。当会が今後も長く持続可能な発展を続けるためには、今日的な環境に即した運営に進化して行くことが肝要だと考えています。会員の皆さまと知恵を出し合い、日本人会の新しいスタイルを模索して参りたいと思っておりますので、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後に、クアラルンプール日本人会が、多くの会員の皆様に長く親しまれる会として発展していくことを祈念し、私の挨拶といたします。

(13) 質疑応答

特になし

■ 閉会の辞

(柳井事務局長)

以上